

むつ 小川原港

青森県県土整備部港湾空港課

〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号

☎ 017-734-9673 FAX 017-734-8194

URL : <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/kowan/>



1. 概況

むつ小川原港は、青森県の太平洋岸に面して下北半島基部付近に位置し、むつ小川原総合開発の中核になる港湾として、昭和50年12月に策定された「むつ小川原開発第二次基本計画」を踏まえて計画され、本県12番目の港湾として昭和52年3月に地方港湾の指定を受けた。同年9月に重要港湾に指定され、この開発計画を背景に石油精製、石油化学、その他関連工業の立地から発生する港湾貨物及び開発地域内の産業の発展ならびに人口の増大・所得の向上に伴う一般公共貨物の輸送需要に対応した港湾計画が策定された。

港湾工事は昭和53年度から始まり、ケーソンを製作する作業基地が昭和58年に完成し、これにより第一線防波堤の建設も進んでおり、現在までに約2,060mが完成している。また、30万トン級タンカーが係留し原油の受け入れができる一点係留ブイバースも設置されており、5,000重量トン級岸壁2バース、2,000重量トン級岸壁9バース、700重量トン級岸壁2バースも供用されている。さらに、尾駈地区には漁船用船溜りも完成している。

むつ小川原港における令和元年の港湾貨物取扱量は約51万トンであり、砂利・砂がその大半を占めている。

むつ小川原総合開発の地域内は、我が国のエネルギー政策にとって重要かつ多様なエネルギー関連施設の集積地となっており、国家石油備蓄基地や原子燃料サイクル施設、国際核融合研究施設に加え、近年では大規模風力発電所及びその関連施設、大規模太陽光発電所（メガソーラー）の立地が進んでいる。

むつ小川原国家石油備蓄基地は、我が国の国家石油備蓄基地の第1号として、昭和58年(1983年)9月に操業が開始され、現在では51基の貯蔵タンクに約480万キロリットル、我が国の消費量の約2週間分に相当する量が備蓄されている。

また、原子燃料サイクル施設では、現在、ウラン濃縮工場、低レベル放射性廃棄物埋設センター、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターの三施設が操業を開始しており、さらに原子燃料サイクルの要となる再処理工場の試験運転と、MOX燃料工場の建設が進められている。